

令和7年度秋田県環境審議会第3回八郎湖水質保全部会議事録

1 **開催日時** 令和7年12月19日（金）15時30分～17時

2 **開催場所** 秋田県秋田地方総合庁舎 605会議室

3 **出席者**

◆委員10名中9名出席（うち1名代理出席）

片野部会長、菊地委員、近藤委員、永吉委員、宮田委員、鷺野委員（田中農村環境課長代理出席）、景山委員、金田委員、西村委員

◆オブザーバー

東北農政局八郎潟農業水利事業所 宇尾課長

◇秋田県

藤原八郎湖環境対策室長、他室員5名

◇パシフィックコンサルタンツ株式会社

上原技術課長、東海林技術課長

4 **議事**

議題

【諮問第2号】八郎湖に係る湖沼水質保全計画（第4期）の策定について

◆委員

今まで何回か委員の皆様の意見を聞いてきたが、第4期計画案ができたということで、何か気づいた点があれば発言をお願いしたい。まずは、専門委員の先生からお願いします。

◆委員

説明について良く理解でき、今まで十分に議論してきた内容が盛り込まれている。この計画案について、特に修正点はない。その上で10年計画となるため、しっかりと今後の管理をしていただきたい。水質保全は大変なことだと思うが、様々なポジティブな意味合いのメニューも盛り込まれたと認識しているため、地域の皆様、あるいは地域に限らず広く、秋田県や八郎湖の素晴らしさを伝えるような形で水質保全計画に取り組んでいただきたい。

◆委員

10年というのは長く、何回か担当者の交代も出てくるため、その間にやる気をどう維持していくか、あるいは計画を見失わないで目標を見つめて進められるかが10年となると課題になる。スタートに当たっては、できるだけ途中の目標をはっきりさせながら、進みやす

いような計画、段取りを考えてスタートしたほうが良いのではないか。

◆委員

中身はこのとおりで素晴らしいと思うが、これをいかに地域の住民あるいは農家の人たちに理解してもらえるかがポイントになる。

1点だけ25ページ以降は左側に現況があつて、右側に目標がある。24ページだけ目標が先に来ているため、これを25ページ以降と同じように先に現況があつて、次に目標値を書くこと見やすいかもしれない。

◇県

資料について、修正する。

◆委員

全体として非常に見やすくなったと思う。他の委員の方も話していたが、是非これができるだけ地域の皆様に見てもらうような工夫をしていただきたい。

1点だけ形式的なことになるが、ざっと目を通すと、42ページのポツ点の上から6つ目、DNA手法のDNAについて、全角となっている。他が全て半角になっているため、統一した方がよい。同じようなことが49ページからの用語解説にも見られる。おそらくルールとして、項目のところを全角にして、本文を半角にしていると思うが、53ページのT-NとT-Pについて、全角にした方がよい。全体的に整合性を取ってもらいたい。

◆委員

今の指摘について、修正をお願いします。

住民から意見を伺う手法について、従来だと会議などを開催し、住民にこういうことをやってるよと説明して進めてきた。必ずしも受け手側の理解度がどの程度かということをチェックする指標はなかったが、これからはそういう点もチェックしていきたいということで良いか。

◆委員

情報発信する場合、こちらから情報発信したものに対して、何回視聴されたか、そのページを何回見てもらったか、もしくは地域の住民からこういう情報が何件寄せられてそれを発信するなどを数値化して表していくことが大事である。地域の住民にとって関心のあるもの、もしくは地域外の住民がこの地域に行きたいと思うような内容を積極的に伝えていくことも大事だし、地域の住民から散歩中に八郎湖でこういう花が咲いたという写真を送付してもらうなどの仕組みが今後があっても良いのだろう。

◆委員

そういった仕組みは今まで全然なかった。我々の生活において八郎湖の綺麗な花を見つけた時に、どこかに伝えようと思ってもどこへ伝えたら良いのか分からなかった。

◆委員

その通り。自分で発信するしかなかったかもしれない。

◆委員

例えば、県の八郎湖環境対策室、あるいは別の部署がそのような情報を受けるということがこれから非常に大変になる。皆に日常的に受け入れられるまで続けるというのはかなり時間がかかるように感じる。

◆委員

情報を発信するプラットフォームを作っていくことも大事だし、地域の自治体との連携も今後更に必要になる。

昨年7月に県内の人口が90万人を切ったというのはご存知だと思うが、今年11月で更に2万人以上減っている。南秋地域4町村の人口が1万9千人ぐらいであるため、この地域の人口が全てなくなるのと同じペースとなっている。県や自治体と連携し、どう発信して、継承していくのかという仕組みを作っていくといけない。

◆委員

八郎湖に関しては、環境教育などを相当長い期間、何十年と行ってきたが、目に見えて反応があるという感じがしない。大学においては八郎湖を学びたい学生は出ているので、関心がある人はそのような教育に反応していると思うが、一般的に見てこんなに教育を熱心にやっているのに、八郎湖のことをもっと認識しても良いのではないかと思うが、あまり反応がないという感じもある。行政の姿勢を変えることになるが、その姿勢が変わったと相手に認識させるまでは相当な苦労が必要だ。そこの作戦をうまく立てていかないと空回りしてしまうのではないかと感じるが、何か良い前例みたいな経験はないか。

◆委員

指摘のとおり、最初に情報発信して地域の皆様に認知されるまでは時間がかかる。こういうプラットフォームを作りましたということを広報していくことが重要であり、世代によって情報の伝え方が変わってくる。20代、30代はインターネットから情報を収集する一方で、60代、70代は新聞やチラシから情報を得るため、世代に沿った情報発信手法とすることで、参加してもらおう仕組みを考えないといけない。

◆委員

どのようなプランでも、それを実際に動かして効果を出すまでとなると、かなり作戦を立てないとなかなかうまくいかない。これから実行段階に移すに当たり、新たにやるものについては、事業を定着させるような行程表を作っていただきたい。これが一番効果につながるかどうかのポイントになる。

他の委員の方で何か気づいた点があれば発言をお願いしたい。

◆委員

42 ページ（3）の内容と用語解説 54 ページの 1 番下、八郎湖研究会の説明について、42 ページでは構成メンバーに民間企業という言葉が入っているが、用語解説では入っていない。それから 42 ページでは研究者と限定しているが、用語解説では研究者など他の分野の方も入っているようなニュアンスが書かれている。42 ページと 54 ページについて、合わせた方が良いのではないか。

◇県

指摘のとおり、資料を修正する。

◆委員

16 ページの図 21 アオコレベルの経年変化について、赤い点線の説明がない。これは何か。別の数字が入っていて余分なのか。あるいは書くのを忘れたのか確認したい。

◇県

確認して、資料を修正する。

◆委員

23 ページの図 28 について、この図が今までと大きく変わって、第 4 期では水質保全に加えて、生態系保全、魅力向上、情報発信の部分についても仕分けされて分かりやすくなり、この図が全国に八郎湖の第 4 期計画の取組だということを出ていくものになる。生態系保全、魅力向上、情報発信という新しい取組について、評価指標と書いてあるので、これをどう評価していくのかというのは、全国の湖沼関係者からも非常に注目されることになる。中間評価の時にやっぱりこれはもうやめるといふことのないように、是非ロードマップを作成して着実に進めていただきたい。その上で産官学、公設試を含めて連携を深めていくべきだろう。

◆委員

ワーキンググループのような知識のある方に協力をいただき実行していくことが大事で

ある。

◇県

そのあたりは八郎湖研究会とも連携していきたい。

◆委員

八郎湖水質対策連絡協議会について、市町村の首長が出席する会議か。

◇県

首長が出席し、会議を行うものである。

◆委員

実務を担う方の会議はないのか。

◇県

幹事会があり、そこには実務担当者が集まる。また、担当者会議や研修も行っている。

◆委員

そういう場で話せば、市町村には伝わるということか。

◇県

関係の市町村とはそういった形で、連携している。

◆委員

できるだけそういう場で理解を深めていただくことが大事である。

生態系について、第3期までは水質改善を主な目標として、水質改善が進めば、生態系も回復するという発想で取組を進めてきたことから、生態系についてはそれほど重きを置いていなかった。しかしながら、八郎湖は湖沼そのものが大幅に変化しているので、水質が改善しても必ずしも昔の八郎湖には戻らない。八郎湖で水草がたくさん生えていたところは周辺干拓地となり、4mの水深だったところは10mや7mになり、元の湖とは違うものになっているため、同じようなことを求めるのはもう無理である。その中で今の生態系はどうか現状をきちんと把握しておかないと、これからの変化に対応できない。これからがスタートになるので、今後の取組によって、良くなったのか悪くなったのかという点の把握についてもお願いしたい。

それから、湖の健全性を評価する指標を作るという話があり、確かに重要なことであるが、現状の環境がどういう状態かということ、評価基準ができるまでの間、現状で評価する方

法、指標で把握しておくことも重要である。例えば、生物にとって、無酸素状態、酸素が少ない状態は決して良い状態ではないので、深層DOを測定して把握するなど、年々の八郎湖の変化を把握していただきたい。窒素、りんも確かに把握の対象にはなるが、過去の例を見ると、それだけを見てもよく分からないため、もう1個、深層のDO、もしくは他に何か良い指標があればそれでもいいが、健全性を把握、監視しながら八郎湖を見ていただきたい。

◇県

今後そういったところも検討しながら、第4期計画を進めていく。

◆委員

よろしく願います。他に何か意見はないか。

それでは第4期計画の策定について、特に異議なしということで、後日、適当である旨を知事に答申することとする。

以上